俳句

大津俳句会

開け放つ窓を狭しと虫時雨　井芹眞一郎

飛跳ねる子らの先行くバッタかな　秋山　恵子

秋風に風船かづら膨らみぬ　市原　初女

紅濃かり庭に追慕の八重芙蓉　江藤　みち

街路樹の端に咲きたる彼岸花　大塚喜久子

一点の雲なき夜明け秋澄めり　坂本　セキ

秋立つやピアノの音の流れくる　佐賀　久子

鳶鳴いて俯瞰している島の秋　松尾　昭雅

水はじく紫紺の茄子の太りをり　岡崎　浩子

朝霧を踏めば弾みし靴の底　森山美穂子

俳句

つのはな句会

りんどうぽつんと　そこが母の位置　星永　文夫

朝焼けをまとい秋あふれる街　梅木トキエ

海の日の天草の風　兄やさし　塚本　洋子

編隊のどこかに父が　鬼やんま　榮田シノブ

勇姿爽やか歓喜谺（こだま）す「あそぼーい」　志賀　孝子

モノクロに凹む九月のコーヒー缶　田上　公代

「昭和とは」自分に問うて夜の秋　木庭　杏子

秋夕焼亡者が座る椅子二つ　上杉　波

路地裏のうわさ小耳に青鬼灯　矢嶋　道子

流れ星脳に映した願い事　水野　春子

短歌

大津短歌会

三密は甘い蜜ではありません
禍散らす掟かみしむ　管野　静

晩年の母が我が肩揉みくれし
撫でてるような感触今も　坂本　杲子

はらわたのようなる雲におおわれて
光ひとすじに見えずに雨　渡邊佐代子

豊肥線やっと復活車窓より
景色眺むも傷跡深し　鞍　岳志

休耕の田は広がりて草の実の
鳴れるを聞けば悲しみの湧く　吉永　恵子

梅雨の庭植物すべて潤いて
木々は緑の雫を落す　豊岡ミツル

梅雨明けて日射しまぶしき軒下に
孫が育てしトマト色づく　小平　善行